1年Aグループ作成

産経新聞編集企画室の協力を得て制作しています。

聖心新聞

令和３年（2021）日刊28020号

2|1［月］

完全中高一貫６年制教育
聖心学園中等教育学校

〒634－0063　奈良県橿原市久米町222番地
TEL：0744－27－3370

健康守り続けた100年企業

薬品メーカー・雪の元

「製造・品質管理 厳しく実施」

聖心学園中等教育学校（奈良県橿原市）の1年生Aグループの3班が「橿原市の施設」について調べ、まとめた。歴史的な施設が注目されることが多い橿原市だが、薬品メーカーの「雪の元」と、市民が楽しめる「橿原運動公園」にも素敵（すてき）な魅力がある。ぜひ知ってほしい。

同市大谷町にある「雪の元」は、創業以来100年以上の月日を、薬とともにやってきた。軟膏（なんこう）剤やクリーム剤、液剤など外用剤の専門メーカーとして、順次新しい機器の導入を図り、高い水準で一定の品質を確保するため、日々努力している。

「あかぎれ膏」や「つちの膏」「即効頭痛膏雪桜」に「藤本万能薬」などを製造、販売していた同社だが、初めは失敗と苦労の連続だったという。しかし大正時代以降、同社を大きく発展させたのが、のちに社名にもなる皮膚疾患外用薬「雪の元」（現在は外用雪の元）の発売だ。

外用雪の元は、処方の大幅な変更もなく、人々に愛され続けている。近年の健康志向の高まりにより、これまで以上に安全性への関心も高まりつつある中で、同社の担当者は「清浄な空気のもと、製造管理および品質管理を厳しく実施し、人々の健康に寄与し続けていきたい」と話していた。

100年以上の歴史を誇る薬品メーカー「雪の元」

家族連れに人気

橿原運動公園

次にとりあげるのは、各種のスポーツ施設やレクリエーション施設が集結している「橿原運動公園」（同市雲梯町）だ。

硬式野球場やテニスコートだけでなく、軟式野球場やソフトボール場、屋根付き運動場もあり、スポーツを楽しもうという人はもちろん、くつろぎスペースとしても利用できる芝の多目的広場もある。身近なスポーツ施設として、オールシーズン、家族やグループで気軽に利用できる。

交通の便よく街がきれい

高い水道料金 デメリット

聖心学園中等教育学校の地元、橿原市のことを人々はどう思っているのか―。1年Aグループ4班の私たちは、近鉄の橿原神宮駅前、大和八木駅前と橿原神宮の三カ所で人々にインタビューを行った。その結果「住みやすい」「交通の便がよく街がきれい」などの意見を得ることができた。

橿原神宮駅（同市久米町）前で答えてくれた男性は「橿原市のメリットは、都会でも田舎でもなく、住みやすいところ」と答えてくれた。一方で「デメリットは、水道料金が高いことと、タバコのポイ捨てなど、ルールを守っていない人が多いところだ」とも話した。

橿原でインタビュー

橿原神宮（同市久米町）では、福井県越前市から参拝に来たという男女2人にインタビューすることができた。2人は「橿原神宮には初めてきたが、鳥居が立派で感激した」と笑顔で答えてくれた。

古い歴史があることはいいことだが、住んでいる人のマナーの悪さが気になっている人もいた。また住みやすさについては、いいところ、悪いところ両方の意見があった。

近鉄大和八木駅（同市内膳町）前で行ったインタビューでは、橿原市以外から同市に来た人たちにも話を聞いた。答えてくれた人は、学校に行くため橿原市に来たり、買い物のために同市に来たりしていた。

「どこに住んでいますか」という問いには、橿原市のほかに奈良県五條市や香芝市、御所市から来ていると答えた人がいた。

「橿原市の魅力は？」との問いには、「交通の便がよい」「街がきれい」「楽しい街」などの回答があった。インタビューをしてみて、改めて橿原市は交通の便がとてもよく、にぎやかで、遊ぶ場所や買い物をする場所が多い街だと思った。今井町など、歴史に満ちあふれたところもあり、とてもきれい！

橿原市の鉄道交通の中心を担う近鉄大和八木駅

タイムスリップ気分に

これぞ橿原！

聖心学園中等教育学校の生徒たちが、懸命に橿原市についての魅力や歴史などを調べ、1月12日にまとめた。橿原市を代表する「これぞ橿原」という施設として橿原神宮、今井町、橿原市昆虫館を紹介する。

江戸時代の面影を現在に残る「今西家住宅」の庭

橿原神宮（同市久米町）がまつっているのは、初代天皇である神武天皇。「日本書紀」には、橿原宮で即位したという記述が残っている。祭神は、神武天皇とその皇后・ヒメタタライスズヒメ。本殿は京都御所の賢所を移築したもので、文華殿とともに、国の重要文化財に指定されている。

戦国時代、称念寺を中心に作られたといわれている今井町は、戦国時代から江戸時代にかけての日本家屋のたたずまいを現代に残している。外見だけでなく、当時の建材が、ほとんどの住宅に今も使われているという。

今井町内には、国の重要文化財が9件、県指定文化財が3件、市指定文化財が5件と多数の文化財が存在している。町内には、外部からの侵入者を拒絶し独立した自治都市を築いた歴史が表されたりしている。

美しい日本家屋が並ぶ今井町の通りは、とってもフォトジェニックで、昔にタイムスリップしたような気分を味わうことができる。近年おしゃれなカフェも続々とオープンしており、若い人たちの人気スポットにもなりそうだ。

橿原市昆虫館（同市南山町）は「見て・聞いて・触って・感じる」ことができる。昆虫に関する基礎的なことから、自然の中での昆虫たちの生き方や人とのかかわりなどを、1000点を超える昆虫標本や化石標本によって、楽しみながら学ぶことができる。四季を通じて10種類、500頭の沖縄八重山地方の蝶が舞う放蝶温室も注目だ。

書物が語る飛鳥寺

聖心学園中等教育学校1年Aグループの5班は、授業の一環として明日香村へ取材しにいったことをまとめた。古い歴史があり、昔からの建造物がたくさんある明日香村。その中から、飛鳥寺の歴史などを調べた。

飛鳥寺には、日本最古の仏像「飛鳥大仏」がある。「書紀（日本書紀）」によると、天皇が聖徳太子などに銅（あかがね）と繡（ぬい）の「丈六仏像」の造立を誓願したのは605年。造仏工は鞍作鳥で、これを聞いた高麗国の大興王から黄金三百両が貢上されたという。

飛鳥寺、飛鳥大仏は通称名。「元興寺」、本尊の飛鳥大仏は「銅像釈迦如来坐像」ともそれぞれ呼ばれる。飛鳥大仏の像の高さは2トル75セン。国の重要文化財に指定されている。

飛鳥大仏が安置されている「飛鳥寺」

「丈六」とは、釈迦の身長（約4・8トル）が日本の昔の長さでいう「1丈6尺」にあたることからつけられた言葉で、座った姿で半分の高さの仏像も「丈六」の仏像と呼ばれる。

仏像が造られた時期については、書物によって細かな差がある。飛鳥大仏には、本来後ろにある「光背」にその由来が書かれていたと考えられ、「元興寺縁起」という書物がその由来を引用している。

「丈六光銘」によれば、608年に隋の使者らが来日して黄金を奉り、「明年」の609年に仏像を造り終えたという。つまり、「書紀」と「丈六光銘」とでは、飛鳥大仏の完成年次について3年の差がある。

歴史学者の福山敏男さんは、仏像の完成年は、隋の使者らの来日の「明年」であるところ、「書紀」の編者が発願の「明年」と誤認したため、このような違いが生じたものと考証。現在は、本尊の完成は609年と広く考えられている。

四季折々 違う表情

万葉集でも歌われた「大和三山」

飛鳥の魅力といえば何を思い浮かべるだろうか―。歴史や古墳や遺跡といった場所、豊かな自然など、さまざまな魅力が考えられる。聖心学園中等教育学校の1年Aグループ2班は、探究学習「飛鳥プロジェクト」として、明日香村を中心に飛鳥の魅力を調べ、1月12日に新聞記事にまとめた。

万葉集でも歌われた「大和三山」は、畝傍（うねび）山・香久（かぐ）山・耳成（みみなし）山からなる。三山の中で、一番標高が高い（198トル）のが畝傍山。しかし30分ほどで登ることができ、自然に囲まれた中で、澄んだ空気を吸うことができる。

香久山（154トル）は最も神聖視されていて、山中には南に天岩戸神社、北に天香山神社、さらに国常立神社がある。耳成山（139トル）は、三山の中で一番小さい山だが、この山はどの方向から見てもきれいな円錐（えんすい）型の山だ。万葉集では、中大兄皇子がこの香具山のうたを歌ったことで有名である。

耳成山、畝傍山、香具山の大和三山（左から）

明日香村の中央を流れる飛鳥川は、万葉の歌にも多く登場し、たくさんの観光客が訪れる。9月中旬になると、田んぼのあぜに真っ赤な彼岸花が群生し、明日香村の秋の風景として有名である。10月には。細川・稲淵・奥山・八釣地区など数カ所でコスモスの花も楽しむことができる。

国営飛鳥歴史公園（同村平田）では、飛鳥の自然や里山をより身近に感じてもらうために、国蝶オオムラサキの観察会や、人工飼育したオオムラサキの放蝶などを毎年行っている。

オオムラサキは、翅（はね）を広げると10センくらいにもなり、昭和32年に国蝶に指定された。

公園では、春は満開の桜を楽しむことができ、甘樫丘、石舞台古墳、橘寺、飛鳥川沿いなど、どの場所もとてもきれいだ。4月下旬には、岡寺で約3000本のシャクナゲが咲き乱れるほか、菜の花も美しい。

四季折々に違う表情を見せてくれる棚田は、明日香村ならではの景観をつくっている。明日香の祝戸近くには美しい棚田が広がり、まさに「日本のふるさと」を感じさせる。これも飛鳥の大きな魅力の一つである。